

～法人合同職員会議

2017年度園内研修発表会特集～

2018.2.4

恒例の島田福祉会全園の常勤職員による合同職員会議を行いました。理事長からは次年度の事業計画・職員体制についての説明があり、職員は各園それぞれに今年度の園内年間研修の成果を発表しました。法人の今年度の成果と次年度の抱負をご覧ください。

2018年度法人事業計画その他

5園の研修発表を行った後、各園長からの職員紹介、理事長からの永年勤続表彰、法人次年度体制、第二次中期計画および次年度事業計画の提示がありました。自園の1年間の学びを検証すること、他の園の学びを共有し、自園の運営に役立てること、次年度から取り組む中長期の課題を認識し、次年度に関して具体的な運営の基本方針を知ること、4月から共に働く仲間の顔を互いにできるだけ覚えること（全員覚えるのは無理ですが、法人常勤職員が全員集まるのはこの1回しかないの



とりあえずお昼ご飯!



で)が合同職員会の目的です。午後は各園の合同MTの打ち合わせから始まり、各園に戻っての園職員会と、例年ハードスケジュールの1日ですが、様々な学びや刺激を受けた後での各園会議は有益な議論となるようです。特に他園の研修報告を聞いた直後なので、「来年はうちの園でも〇〇園の内容で勉強してみたい」などという声もよく上がります。

永年勤続表彰

法人内に10年以上勤務していること、一定上の評価を継続して受けてきたことを基準として、今年度も12名の職員が表彰されました。対象者には祝い金とリフレッシュ休暇が付与されますので、日頃運営の中心となっている職員が長期休暇を取ることが多くなりますが、この不在期間が、後に続く職員達の責任感や自負心の芽生えにつながってくれることを期待しています。



法人特別表彰

長年の社会福祉活動への貢献を評価され、12月に東京都知事より表彰を受けた、当法人の白石武實監事に対し、法人からも特別表彰を行いました。昨年度に続いての法人役員の都知事表彰は、当法人が認可を受けてから50年近く、地域福祉のために活動してきたことに対する行政からの評価でもありと考えております。法人の歴史については語られる機会も少ないので、特に勤務年数の少ない職員にとっては、自分が所属する法人の沿革や、地域における役割を考える機会になったようです。



北嶺町第二保育園

テーマは、**保育の中に取り入れる音楽「おんがくってたのしいなあ」**

保育の中に取り入れる音楽「おんがくってたのしいなあ」をテーマに取り組みを行いました。日々の保育の中での音楽や音に対する子どもたちの気づきや感性を大切にすることを職員の共通理解とし、大人が教えるのでは

なく、子どもたちの気づきに大人も共感し、必要な環境を整えていくよう配慮しました。音楽を得意とする保護者の方にも参加していただく事で園の活動を保護者とも共有する事ができました。また最後に年長組主催で行った音楽会では、子どもたちが内容を決め、事前の準備や当日の司会進行も全て子どもたちが行い、楽しい音楽会となりました。音楽をテーマにした取り組みをおこなう上で、子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切にできたことで、子どもたちが自分たちで考え主体的に活動する姿から、大人が教え込むのではなく、子どもたちの姿を理解し見守っていく事の大切さを改めて学んだように思います。



北嶺町保育園

「北嶺町保育園独自のオリジナリティあふれる食育計画の作成」をテーマに0歳～5歳児全員が「食べることが楽しい」と思える活動や、切



れ目のない食育計画作成することに取り組みました。異年齢で栽培を行うことによって、職員の栽培物への知識が向上するとともに、幼児クラスが乳児クラスの子どもに知識を教



えるために、自発的に伝えようとする姿が見られるようになりました。また、行事を通して、各家庭にも食への興味関心を持ってもらうことができました。

大森北六丁目保育園

「防災について」をテーマに、地震や津波、火災などに見舞

れた時の避難の仕方や避難場所の確認、被害を最小限にするための対策を話し合い、実践などを行いました。災害発生時に、速やかに避難をするためにはどうしたらよいか、プールや水遊びの際に、まずどうしたらよいか、散歩先ではどのように行動すべきか、様々な状況を想定しながら考えることで、避難訓練とは違う視点で、日常の保育の中で取り組んでいくことができました。また、地震発生を想定したシミュレーションを行い、落ち着いて行動することの難しさも体験しました。被災時は、非日常の生活が待っています。そのときの食事を体験するため、防災食のアルファ化米を水で戻し、試食してみました。子どもたちには概ね好評で、「毎日でもいい」と言いながら食べる子もいました。防災に関する取り組みは、「ここまでやれば大丈夫」というゴールはありません。「想定外」が当たり前のように起こる状況の中で、可能な限りそれに対応できるための取り組みを、今後も継続していかなければならないと改めて感じました。



大森駅前保育園

テーマは「**年間計画と月間計画との整合性の確認**」。毎年度始めに決定する年間計画はその年度のクラス運営の基本となるものですが、計画は実効性



性がある初めて運営に寄与するものです。月々の子どもの様子や環境の変化を反映し、常に反省・調整を行わなければならないものだとすることを改めて確認しました。計画に関して毎月全体で話し



合うことで、子どもへの指導法を学びあったり、子どもの変化を踏まえての次年度への申し送り事項を確認したりなど、はっきりと目に見える形ではありませんが、次年度の運営に向けての大きな成果となったことを確信しています。

島田保育園

テーマは「**園庭・前庭の見直し**」で、実践につなげるため子どもの様子や保育の現状を出し合い、子どもたちが自発的に遊び込める環境を整えた。

園庭の玩具は倉庫にしまわれていたが、子どもたちがすぐに手に取れる場所に設置した。既製の玩具だけでなく、お風呂マットや古タイヤや段ボールの仕切りなどで、子どもたちが自由に自発的に遊び込む姿が見られるようになった。園庭では野菜の栽培・収穫も行い、野菜の生長に関心を持つようになった。



前庭にもビールケースや砂場のおもちゃも、子どもたちがすぐに手に取ることができる棚を購入し、片付けもしやすいように写真を貼った。さまざまな遊具を使って見立て遊びなど遊びの幅が広がり、子ども同士のやりとりが増え関わりが広がった。

見直したことで、職員が子どもの遊びを見守る時間が増え、危険なとき以外の声かけが少なくなったなど職員自身の意識も変化してきた。今後、環境を維持しながら、子どもたちが主体性を持って遊び込めるよう職員の対応を検討していく。